

オンライン・コミュニケーションが組織コミットメント及び パフォーマンスに与える影響について ～大学における講義形式の変化に焦点を当てて～

1220535 濱田 航
指導教員 上村 浩

研究背景

現在、スマートフォンや IC カード、銀行の ATM サービスなど、ICT（情報通信技術）が身近なものとなっている。その ICT を活用し、「テレワーク」や「オンライン授業」といった働き方・学び方が行われている。加えて新型コロナウイルスの影響により、人と人との接触を避ける為、「テレワーク」や「オンライン授業」の普及が促されている。

研究目的

本研究は、コロナウイルス流行前の「対面授業」と、コロナウイルス流行後に導入された「オンライン授業」という授業形態を比較し、学生が学校という組織や、教員に対して抱く感情にどのような変化があるのかを検討することを目的とした。またこれにより、学校という組織を調査対象とし、成員（ここでは学生）の学校に対する帰属意識の変化を検討した。

調査・分析方法

全 13 問の質問を作成し、大学生を対象にアンケート調査を行った。分析方法は以下の通りである。

1. 各設問でオンライン授業に対する回答を比較
2. 学年別・性別の 2 つの要素でサンプルをグルーピングし、各グループの回答の平均値の差を分析した。

これにより、オンライン授業の導入前後で大学生の学校や教員に対するコミットメントの変化、また講義の習熟度等の変化を検討。

分析結果

第 1 に、オンライン授業に対してネガティブな印象を抱く人がポジティブな印象を抱く人を上回った。第 2 に学年別では、グループによっていくつかの設問の回答に有意差があったが、性別では、有意な差は見られなかった。

考察・結論

オンライン授業に対する印象がネガティブである学生は多く、学年での比較により、低学年の学生（学校生活に不慣れな学生）の方が、高学年の学生に比べオンライン授業にネガティブな印象を抱いていることが理解できた。